



様々な芸術・文化に  
触れる体験

# 芸術を通してみんなとつながろう

特別支援学校

東京都立墨東特別支援学校



笑顔と学びの体験活動  
プロジェクト

## 概要

- ・共同・協働作品の制作を通して、本校や分教室、訪問教室の児童・生徒に墨東生としての一体感を醸成する。
- ・プロのアーティストの指導を刺激として豊かな表現方法を身に付け、生涯学習の起点となる活動にしていく。

育成を目指す  
資質・能力

- ・豊かな表現方法の獲得・生涯教育の起点
- ・同じ学校で学ぶ仲間との一体感を醸成
- ・レガシーの形成による愛校心を育む
- ・互いの作品を認め合うことによる自己肯定感の育成

## 年間指導計画

	4～5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1～2月	3月
各教科等			体験① 書道に触れよう		体験② アーティストと共同作品を作ろう	授業 学校ロゴを作ろう		授業 書展作品作り	体験③ 墨東書展と表彰式	

### 書道に触れよう

書道家・森大衛氏を招聘し、2月に開催する「墨東書展」に向けて児童・生徒の興味・関心を高め、プロのアーティストとのかかわりを通して書道に触れることで、表現方法の獲得や創造力の高まりをねらいとした。

午前は小学部を対象とし、学校名と「ゆめ」を大きな紙に揮毫していただくパフォーマンス、午後は中学部・高等部を対象として、校訓と「心」を大きな紙に書いていただくパフォーマンスを行った。その後、それぞれ代表の児童・生徒が半紙に「ゆめ」と「心」を書き、森氏に作品の講評をしていただいた。

## 体験①概要

### アーティストと協働作品を作ろう

イラストレーターの小池アミゴ氏を招聘し、全校児童・生徒による協働作品の制作を行った。本校の児童・生徒は体育館に広げた大きな用紙にペンや筆、身体全体を使って絵を描いたり、着色したりして色を重ね、大きな作品を制作した。訪問学級、分教室の児童・生徒は「花」をテーマに作品を作り、そこに小池氏がデザインを重ねた協働作品を制作した。

完成した作品は小池氏が構成をし、12月に行われた墨東祭（文化祭）で大型協働作品・「ウェルカムフラッグ」として披露され、本校正面玄関に設置された。

## 体験②概要

### 墨東書展と表彰式

1月から全校児童・生徒の体験活動として書道作品の制作を行った。2月は特設展示会場を設営し、児童・生徒、教職員による優秀作品の投票を行う「墨東書展」を開催した。

「墨東書展」最終日には再度、書道家・森大衛氏を招聘して優秀賞の表彰式を行った。また、7月の体験で揮毫していただいた学校名と校訓の周りに、全校で取り組んで制作した「学校ロゴ」をちりばめたタペストリーを作成・披露し、今年度の体験活動の総括とした。

## 体験③概要



【学校・教員】

- 書道に親しもう  
全校集会にあたっては、同時中継、録画のために機器準備等を行った。
- 学校ロゴを作ろう  
図画工作・美術や総合的な学習の時間など、児童・生徒の実態に応じて授業内容を作成、計画的に取り組んだ。



【生徒】

- 書道に親しもう  
代表の児童・生徒も含めて、国語や美術の時間で書道や墨書に取り組んだ。
- 学校ロゴを作ろう  
学校について知るため、図書コーナー「学校の歴史」の検索や校内探索を行った。

体験活動での作品と「森先生へのメッセージボード」を設置し、お礼のメッセージを記入した。書道展の作品作り前には録画した映像を全校で見られるようにして、振り返りを行った。

学校ロゴはタペストリーだけではなく、年度末に配布する作品集に掲載、校長室前の「笑顔と学びの体験活動プロジェクト展示」にも展示し、児童・生徒の芸術鑑賞の一環としている。

書道では、「作品を見る・書く」だけではなく、墨の香りや半紙の触り心地など、たくさんの感覚を使って体験することができ、児童・生徒の様々な表情を引き出すことができた。



- ・大きな紙に書いている姿が迫力があってすごかった。
- ・自分も上手に字を書きたいと思った。
- ・子供が「すごかった」と報告してくれた。（保護者）



## 書道に親しもう

今年度より開催する書道展に向けて、興味・関心の高まりや表現方法の獲得をねらいとして書道家・森大衛氏を招聘した。はじめに「学校名」や「校訓」などを大きな紙に書いていただくデモンストレーションを行った。その後、森氏に書いていただいた書を手本に代表の児童・生徒が体験を行った。体験活動中は森氏からアドバイスをいただいたり、書いた作品に講評をいただいたりした。

訪問学級や分教室については、オンラインで中継したり、撮影した動画を視聴したりして、全校で取り組む書道展に向けての興味・関心の向上を図った。



## 学校ロゴを作ろう

学校としての一体感を醸成し、3年後の開校40周年に向けて、森氏に揮毫していただいた、学校名と校訓の周りに、児童・生徒がそれぞれ作成した学校ロゴをちりばめたタペストリーの作成を行った。小学部の準ずる教育課程では、学習グループ名でチームを作り、相談しながらロゴを作成していく授業を行った。コンセプトやそれぞれの想いを発表する時間を設定し、役割も自分たちで決めて学校ロゴの作成に合わせた総合的な学習を行った。中学部の知的障害を併せ有する教育課程では、デジタルアートをテーマとして、タブレットを端末活用した作品作りを行った。完成したタペストリーは2月に行われた墨東書展の表彰式でお披露目し、生徒玄関に掲示されている。





【学校・教員】

実際に児童・生徒と関わっている教職員とイメージを共有したいという小池氏からの提案で、教職員向けワークショップが行われた。児童・生徒それぞれが、画用紙に「楽しい学校」をイメージした線を描き、それをつなげることで一つの作品になるように制作した。自由な発想と想いを重ねるイメージの共有を図った。



【生徒】

4日間に渡って行ったため、別日の体験活動を見学したり、途中までの作品を鑑賞したりして、期待感を高めていった。講師の小池氏が体験活動外の様々な時間で積極的にコミュニケーションを取ってくださったので、児童・生徒もスムーズに体験活動に取り組むことができた。

講師に小池氏をお招きして、全校児童・生徒との写真撮影会を行った。当日は雨天だったが、体育館のステージに投影された作品をバックに撮影を行った。同時中継で分教室や訪問学級の児童・生徒も参加することができた。

校長室前に「プロジェクト展示」を設置し、本校の完成作品や、それぞれの花のイラストを飾っている。

体育館いっぱい広げられたキャンパスを見て驚いたり、ワクワクしたりしている児童・生徒の表情や、作品を作っていくうちに笑顔になる表情が印象的だった。



- ・大きな紙に寝転がって絵を描いて楽しかった。
- ・自分の作品が大きく掲載されてうれしい。
- ・フラッグで、さらに開かれた学校になったように感じる。(保護者)



プロのアーティストと協働作品を作ろう

イラストレーターの小池アミイゴ氏を招聘して、全校児童・生徒による協働作品の制作を行った。

本校の児童・生徒は体育館に準備された大きな用紙に寝転がってペンや筆、身体を使って、イラストを描いたり、着色をしたりした。車いすから移乗が難しい児童・生徒は車いすに乗ったまま、タイヤに絵の具を付けて紙の上を走ったり、補助具で柄を長くしたペンや筆を使ったりした。

4日間、12回に分けて重ねられたイラストや色はそれぞれの想いが込められた作品になった。

分教室、訪問学級の児童・生徒は小池氏によるビデオレターとレクチャー動画を視聴し、「花」をテーマにそれぞれ画用紙にイラストや線画を描いた。訪問学級の児童・生徒が作成した作品に小池氏がアレンジを加えて、共同作品を完成させた。作品の裏には小池氏へのコメントがあるものもあり、その声に応えるようにイラストを重ねたり、アレンジを加えてくださった。

それぞれの作品は小池氏が最終的なアレンジを加え、重ねる等してアーティストと全校児童・生徒との協働作品として完成させた。完成した作品は、学校の正面にあるスクールバス駐車場の屋根部分に大きなウェルカムフラッグとして掲示された。12月の文化祭でお披露目されたウェルカムフラッグは、全校児童・生徒による巨大協働制作として紹介され、当日、保護者や来賓などの来校者をお迎えした。



# 体験 3回目

計画・準備・事前学習



【学校・教員】

- 墨東書展  
プロジェクトチームを設置。作品掲示方法や投票方法等を検討し、内容の制作を繰り返し行った。
- 墨東表彰式  
全校で盛り上げるため、保護者を含めた全校周知を積極的に行った。



【生徒】

- 墨東書展  
7月の体験活動の内容を再度確認したり、書道作品の映像を視聴したりして、関心を高めた。
- 墨東表彰式  
投票を全校児童・生徒、教職員で行うことで、友達の作品にも興味をもって鑑賞できた。

事後・振り返り

校長室前に「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」で取り組んだ内容や講師の紹介、制作した作品を特設展示した。作品に関してはデジタル作品集を制作し、タブレット端末等で閲覧できるようにした。自分たちが作った作品単体とそれらを合わせたウェルカムフラッグやタペストリーを見比べることで、学校全体として一つの目標に向かっていく意識の醸成につながった。

## 墨東書展

1月に作品を制作し、2月から作品を展示した「墨東書展」を開催した。学習グループごとに個性豊かな作品作りに取り組み、落款を押しして作品を完成させた。全校児童・生徒と教職員の投票によって決定する「ベルかも賞」を設けることで、鑑賞も楽しく真剣に取り組むことができた。投票用紙にはコメントもあり、それぞれを称えあうことで健全育成の観点からも良い教育活動になった。



取組・実践

## 墨東書展表彰式

「墨東書展」最終日には書道家の森氏をお招きして表彰式を行った。特別審査員賞を含め、4つの賞を設け、学部ごとに選出した。22名の児童・生徒が表彰を受け、森氏からの講評をいただいた。最後は当日にお披露目されたタペストリーをバックに記念撮影を行い、今年度の体験活動の締めくくりとした。



成果

- ・体験活動の中で、「自分はこうしたい」といった表現の表出があったり、アーティストや友達の方法を見て自分で試行錯誤したりする姿が見られた。  
**(豊かな表現方法の獲得・生涯教育の起点)**
- ・別の場所で学ぶ仲間を知るきっかけになったり、一つの作品の中にそれぞれの個性を感じたりすることができた。**(同じ学校で学ぶ仲間との一体感を醸成)**
- ・ウェルカムフラッグやタペストリーの制作を通して、学校について考えたり良いところを見付けたりすることができた。  
**(レガシーの形成による愛校心を育む)**
- ・表彰式やお互いの作品に対するコメントを通して、自己肯定感を高めたり、相互理解を進めたりすることができた。  
**(互いの作品認め合うことによる自己肯定感の育成)**

